


茶境

首届中日茶文化交流展作品集

Exhibition Catalog of the 1st Sino-Japanese Tea Culture Exchange

主编 郑宁


 中国纺织出版社

茶境

首届中日茶文化交流展作品集

Exhibition Catalog of the 1st Sino-Japanese Tea Culture Exchange

主编 郑宁

 中国纺织出版社

内容提要

本书通过对生活日用器具的设计传达了艺术家们对于“茶文化”的理解，“茶境”也折射出人生的境界，陶瓷、织物、软木、紫砂、纤维等材质的特性在艺术家们的作品中得到精彩诠释。“中日茶文化交流展暨研讨会”由清华大学美术学院与日本东京艺术大学联合发起，本书呈现了此次中日两国艺术家们围绕东方传统文化精神所创作的作品。

本書は日用的に使用する茶道具のデザインを通じて芸術家達の茶文化への理解を深め、“茶境”という言葉のように茶と人生の境界を崩していく。陶器、織物、コルク、紫砂、繊維等の材質特性を芸術家達は作品の中で昇華させる。“日中茶文化交流展及びシンポジウム”は日本東京藝術大学と中国清華大学美術学院の2大学で発起された。本書は日中両国芸術家達の東方伝統文化精神を網羅した一つの作品である。

图书在版编目(CIP)数据

茶境：首届中日茶文化交流展作品集／郑宁主编

—北京：中国纺织出版社，2013.9

ISBN 978-7-5180-0049-4

I. ①茶… II. ①郑… III. ①茶具—设计—作品集—中国—现代②茶具—设计—作品集—日本—现代 IV. ①J531

中国版本图书馆CIP数据核字(2013)第223165号

责任编辑：杨美艳 特邀编辑：王璐 袁丹

中国纺织出版社出版发行

地址：北京市朝阳区百子湾东里A407号楼 邮政编码：100124

邮购电话：010-67004461 传真：010-87155801

http://www.c-textilep.com

E-mail: faxing@c-textilep.com

北京今日风景印刷有限公司 各地新华书店经销

2013年9月第1版第1次印刷

开本：787×1092 1/16 印张：14

字数：20千字 定价：68.00元

凡购本书，如有缺页、倒页、脱页，由本社图书营销中心调换

名誉主编：鲁晓波

主 编：郑 宁

总 顾 问：张夫也 胡永生

编 委：

陈秋荣 林乐成 刘润福 鲁晓波 臧迎春 张夫也 张 敢 郑 宁 周剑石

(按姓氏拼音顺序排列)

编 务：

张 露 陈 朗 王婧宇 崔 晨 曾 巧 安 丛 三田村有芳 朱倩玉 刘 旻

中国·展览执行委员会

- | | | | |
|------|-------------|----------|------------|
| 主任 | 鲁晓波 | 清华大学美术学院 | 院长 |
| 副主任 | 张 敢 | 清华大学美术学院 | 副院长 |
| 执行主任 | 郑 宁 | 清华大学美术学院 | 教授 |
| 委员 | 陈秋荣 | 清华大学美术学院 | 客座研究员 (漆艺) |
| | 林乐成 | 清华大学美术学院 | 教授 (纤维) |
| | 刘润福 | 清华大学美术学院 | 讲师 (陶艺) |
| | 臧迎春 | 清华大学美术学院 | 副教授 (染服) |
| | 张夫也 | 清华大学美术学院 | 教授 (史论) |
| | 周剑石 | 清华大学美术学院 | 副教授 (漆艺) |
| | (按姓氏拼音顺序排列) | | |

日本・事業運営委員会

名誉委員長 宮田亮平 東京藝術大学校長
名誉副委員長 保科豊巳 東京藝術大学美術学部長
名誉副委員長 関 出 東京藝術大学美術館長
委員長 島田文雄 東京藝術大学工芸科系主任
副委員長 飯野一朗 東京藝術大学評議員
副委員長 三田村有純 東京藝術大学学長特命
委 員 前田宏智 (彫金副教授) 篠原行雄 (鍛金教授)
丸山智巳 (鍛金副教授) 橋本明夫 (鑄金教授)
赤沼潔 (鑄金教授) 小椋範彦 (漆芸副教授)
豊福誠 (陶芸教授) 菅野健一 (染織教授)
上原利丸 (染織副教授) 菌部秀徳 (木工芸講師)
藤原信幸 (玻璃副教授)
関根秀治 裏千家 事務総長
山崎益子 (山崎宗栄) 裏千家 東京第7東支部 幹事長
植松慶子 (植松宗慶) 裏千家 関東第1地区委員長

茶文化交流事業の開催を祝して

お茶は中国の南方を発祥として、今日、世界中の人がたしなんでいるものです。醗酵の度合いや製法の違いにより白、紅、緑、黒色など様々な種類が有り、それぞれ香りも、味わいも違い、その飲み方も各国で様々であります。

当然そのお茶をたしなむ為の道具も背景の文化も各国、各地で異なり、それぞれ独自の発展を遂げてまいりました。

日本には、中国から遣唐使が持ち帰り、最初は薬として飲まれていたようです。その後茶道として、お茶を中心に総合芸術文化として発展していきます。

本交流事業は中国の清華大学美術学院と東京藝術大学の教員達が「茶文化」というテーマのもと、交流展覧会とシンポジウムを開催いたします。中国が発祥であるお茶、そして道として極めて来た日本のお茶に関する芸術文化が、互いに出会う事によって生まれる新たな意識を大事にしていきたいと思えます。

この様な素晴らしい試みが実現に至ったのは、清華大学美術学院の前身である中央工芸美術学院の時代から、共に創りあげてきた緊密な連携による賜物だと感じております。この場を借りて、今まで関係を培って来られた両大学の先輩方、またこの度御尽力いただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

宮田 泰平

日本東京藝術大学 学長

2013 年秋

恭祝茶艺文化交流活动开幕

茶起源于中国南方，发展到今天，已经成为被世界各国人民所喜爱的饮品。茶叶根据发酵方式和制作方法的不同，划分为白茶、红茶、绿茶、黑茶等各种品类。根据各自香型、味道的不同，各国的饮茶方式也是千差万别。

当然，因为各国各地区由饮茶所衍生的茶具、茶文化背景迥然不同，所以各国各地区的茶艺文化也逐渐各自独立发展起来。

日本的茶是由遣唐使从中国带回，最初是作为一种珍贵的养生药来饮用的。后来，以饮茶为核心的茶道文化，作为一门综合性的文化艺术逐渐发展起来。

这次交流活动是由中国清华大学美术学院和日本东京艺术大学联合发起的艺术交流活动。以“茶艺文化”为主题，通过茶艺作品交流展览和茶艺学术研讨会的形式展开。由中国发祥的茶艺文化，在日本逐渐演化上升为茶道。此次两国通过茶艺术文化相互交流所产生的新意义，值得珍重。

这样令人感慨的交流尝试能够实现，离不开两校的努力。这些成果是源自清华大学美术学院前身中央工艺美术学院时代就开始的，是两校紧密合作共同开创的产物。在此，谨向为培育促进两校关系的前辈领导、以及为这次茶艺文化展览所尽心尽力的各位工作人员，致以真诚的谢意。

宫田亮平

日本东京艺术大学 校长

2013 年秋

致辞

作为亚洲茶文化最发达的两个国家，中国对于茶类、茶经、茶器等文化和工艺原创开发的诸多成果在茶文化史上的地位无可取代，日本在茶文化及工艺的传承和创新上，以独有的茶禅、茶道、茶具设计探索及自成一体的茶宗方面成为东亚的表率。中日两国的茶文化同宗同源，又具有精彩各异的地域文化特色，使两个茶文化大国的交流具有特别的价值和意义。

一衣带水的地理位置将中日两国的文化、情怀和美学品格进行链接、交融，学院派的艺术家更倾向于谨守传统血脉又紧扣时代脉搏创新突破。本届交流展和研讨会邀请中日顶级专业院校的专家参与，将他们严谨的设计体悟和设计研磨过程呈现为作品并集聚为直观展场，使这一展示当代传统工艺设计面貌的窗口更具备“以茶论道、以物会友”的学术氛围。围绕中日两国共同关注和擅长的工艺美术领域进行搜集、整理，以关于东亚特色文化的生活用品与公共艺术领域的设计品进行展示和交流，本次的“首届中日茶文化交流展暨研讨会”旨在展现和探讨东方传统文化的精神及其魅力和价值。

时代的更替带来了设计理念的变革，承载我们情感和心灵智慧的传统工艺美术也面临着重新定位、深度开发和高端设计，以走向更适合自身发展的道路。中日两国艺术家和设计师的探索为传统宝藏注入了活力，体现了学术力量推助市场以及高校成果服务社会的宗旨。本届展览和研讨会有利于两国文化的深度交流，和并在艺术教育的思路达成高度共识，有利于弘扬东方传统文化的精神，将会取得十分积极有益的成果。

最后，热烈祝贺“首届中日茶文化交流展暨研讨会”顺利开幕，衷心希望植根于新时代土壤的传统工艺美术取得更大发展。



中国清华大学美术学院 院长

2013 年秋

祝辞

アジアにおいて、日中両国は茶道の大国として知られております。茶文化の歴史において中国茶の種類、茶器、そして有名なお茶についての書物である『茶経』等の茶文化があり、日本においては禅茶、茶道、茶道具等の茶文化と茶工芸の伝承及び発展においてアジアの代表となってきました。日中両国の茶文化は同宗同源であり、またそれぞれが地域の特色を持っております。この両国が交流する事は特別な意味と価値があると思えます。

一衣帯水の地理的関係もあり、日中両国の文化、芸術は様々な方面で繋がり、融合しております。現在まで学院派の芸術家は伝統を守り続けながらも各時代の要素を取り入れながら制作をしまりました。本交流展とシンポジウムに日中両国トップクラスの専門家や教員が参加し交流し、作品について語り合う事はとても意義があります。“お茶をもって思想の交流をする事で、お互い尊敬し合い友となる”という言葉のように、新たな発展への窓口となります。また、日中両国の美術が集まる事で、東アジアの特色ある文化や公共芸術、そして工芸美術、デザインの方面でも交流ができると思えます。この度の『第一回日中茶文化交流展及びシンポジウム』では東方伝統文化の魅力や価値について議論する事も趣旨と思えます。

時代の移り変わりと共に、デザインや理念も進化し変革し続けております。我々の魂、感情、智慧が詰った伝統工芸も新たな位置づけとなります。

高度な技術とデザインとの組み合わせが新たな発展となり、日中両国の芸術家、そしてデザイナーへの活力となります。そして学術を高める事は市場を活性化し、社会発展への貢献となります。今回の展覧会とシンポジウムは両国の交流及び芸術教育の緊密な連携だけではなく、東方における伝統文化の発展においても素晴らしい成果があると信じております。

最後に『第一回日中茶文化交流展及びシンポジウム』の開催を心からお祝いし、新時代を土壌にした伝統工芸美術の更なる発展を祈念しております。

魯曉波

中國清華大學美術學院 院長

2013 年秋

目录

日本東京藝術大学

- 2 《いるか文金彩香炉》——宮田亮平
- 4 《金銀彩掛花》——飯野一朗
- 6 《四分一赤銅打出し花器》——前田宏智
- 8 《現実逃避（軽症&重症）》——草野晃
- 10 《帯留め》——江原真理子
- 12 《トカゲ草紋様花器》——三島一能
- 14 《蘭》——水代達史
- 16 《TANKIN-Air 02》——篠原行雄
- 18 《木目金蜆紋器》——丸山智巳
- 20 《遙 - 汐風とともに - 》——志村和彦
- 22 《茶のうつわ》——守屋康平
- 24 《Comport》——岩崎裕純
- 26 《くるくるする》——中嶋明希
- 28 《青山考》——橋本明夫
- 30 《森の気配》——赤沼潔
- 32 《百花王》——佐治真理子
- 34 《むかし、むかし》——南時俊
- 36 《Relating with Spirit , Matter , and Time》——松渕龍雄
- 38 《永久に継ぐ軌跡》——高橋賢悟
- 40 《松山 遥 満月》；《松山 遥 三日月》——三田村有純
- 42 《蒔絵三足盤》——小椋範彦
- 44 《守箱「夜光」》——青木洋介
- 46 《色貝飾箱「夏みかん」》——松崎森平
- 48 《赤いバラ》——茂田典子
- 50 《朽麿》——小田伊織
- 52 《彩磁花卉文茶碗》——島田文雄
- 54 《釉輪花水差し「瑠璃」》——豊福誠
- 56 《Tower3》——田中隆史
- 58 《赤花更紗文 手提げ急須》——正親里紗
- 60 《黒金水差》——吉田周平
- 62 《粉青瓷香炉》——山本直紀
- 64 《Cosmic Flora》——菅野健一
- 66 《幸福な一日》——上原利丸
- 68 《翠簾》——出居麻美
- 70 《Structurei · llusion- III 》——橋本圭也
- 72 《身に沁みる時間》——山田菜々子
- 74 《五羽のトリピート》——野口都
- 76 《Hydrangea》——朱軼姝
- 78 《車棚》——蘭部秀徳

- 80 《部屋》——黒澤潔
 82 《TURNING FORM》——中内安紀徳
 84 《「植物のかたち」小文間シリーズ》——藤原信幸
 86 《虹の入れ物》——海藤博
 88 《A Box》——榎本夏帆
 90 《Sketch》——内堀豪
 92 《無題》——高岡太郎
 94 《乾漆唐草文菓子器》——佐々木岳人
 96 《Arrive》——三神慎一朗

中国清华大学美术学院

- 100 《白氏杯》——白明
 102 《漆趣 2011》——白小华
 104 《莫名忧伤的池塘》——陈辉
 106 《春的盛宴》——陈秋荣
 108 《九子》——关东海
 110 《荷韵》——洪兴宇
 112 《菩提心清茶具》——李泓
 114 《雅之兰茶具》——李正安
 116 《梅》——林乐成
 118 《米白茶海》——刘润福
 120 《车轮》——刘铁军
 122 《鹤》——鲁晓波
 124 《五个女生》——潘毅群
 126 《刘海与金蟾》——邱耿钰
 128 《炼》——孙嘉英
 130 《银壶》——唐绪祥
 132 《石玩系列》——王辉
 134 《方的联想》——王建中
 136 《茶具“合韵”》——王耀玲
 138 《新韵》——杨帆
 140 《“尖刺”系列》——尹航
 142 《禅茶一味》——臧迎春 李丽
 144 《鱼趣》——张宝华
 146 《茶具：圆》——张夫也
 148 《秋月凝香》——张树新
 150 《清韵》——章星

- 152 《祥云》——郑宁
154 《丹朱而后成》——周剑石
156 《传奇》——周尚仪
158 《清香》——陈斌
160 《风动心动》——陈健捷
162 《蓝花》——丁瑜欣
164 《回味》——贺立武
166 《清流》——蒋雍君
168 《Identity》——金知瑞
170 《心语》——可改玲
172 《红色桌布上的景物》——李秉孺
174 《螭龙茶贮》——刘红生
176 《追·梦》——栾新玉
178 《无题》——梅法钗
180 《无我》——屈金
182 《钧·鉴》——任英歌
184 《秘清雅莲》——宋茜
186 《青花韵》——宋炆
188 《碎化的精神》——谭红宇
190 《沙尘》——王亚韶
192 《皱语2》——王彦梅
194 《三足熙圆壶》——吴奇敏
196 《夹纻章髹盖罐》——杨丽
198 《长柄壶》——游佳
200 《荷》——於彩云
202 《石趣》——翟亚博
204 《本我本真》——张一
206 《壶非壶》——张正中
208 《织晓》——郑丹

210 后记

212 感谢

日本東京藝術大学



宮田亮平

MIYATA Ryohei

金工作家・東京藝術大学 学長

- 1945年 新潟県佐渡に生まれる
- 1972年 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専門課程 鍛金専攻 修了
第11回「日本現代工芸美術展」大賞、読売新聞社賞、日本TV賞 受賞
- 1979年 第18回「日本現代工芸美術展」文部大臣賞 受賞
- 1981年 第13回「日展」特選 受賞
- 1997年 第29回「日展」特選 受賞
- 2001年 東京藝術大学美術学部長 就任
- 2004年 東京藝術大学副学長 理事 就任
- 2005年 東京藝術大学学長 就任
- 2007年 第46回「日本現代工芸美術展」内閣総理大臣賞 受賞
- 2009年 第41回「日展」内閣総理大臣賞 受賞
- 2012年 第68回 日本芸術院賞 受賞



《いるか文金彩香炉》

素材：金、銀、銅

技法：鍛金

サイズ：14×14×12(cm)

揺れ動く水の流れ、そこに遊泳するいるか達、香りの煙の流れが相まって人々の心の安らぎを醸し出す。



飯野一郎

IINO Ichiro

- 1949 年 生まれ
- 1974 年 日本クラフト展出品（‘74 新人賞’ 91 クラフト賞）
- 1975 年 日本ジュエリー展出品 ‘ジュエリー大賞受賞’ 96 ジュエリー賞受賞
- 1975 年 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸科 彫金専攻 修了
- 2006 年 「ジュエリーの今：変貌のオブジェ」（東京国立近代美術館）
- 2009 年 当代国際金属芸術展（北京清華大学）
「シルクロードと日本文化西から東」展招待出品（キルギス国立美術館）
- 2010 年 「Ichiro Iino Metal Works」個展（日本橋三越）
- 2011 年 国際金属芸術展（北京中華世紀壇現代芸術センターホール）
- 現在 東京藝術大学教授（美術学部工芸科彫金）
ドイツジュエリーアート協会会員
（社）日本クラフトデザイン協会会員